

1. 調査報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 0772800512
法人名	医療法人 緑桜会
事業所名	グループホーム 東の広場
所在地	福島県白河市東釜子字枇杷山66番地5 (電話) 0248-35-1666

評価機関名	NPO法人福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町竹の花20
訪問調査日	平成21年 3月 18日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	26人 さくら 常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.8人 こすもす 常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 9.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人緑桜会緑ヶ丘さくら診療所、白河病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は医療法人を母体とし、各専門分野のプロが24時間サポート体制を整え利用者及び家族の絆を断ち切らないよう尊厳のある介護に心掛け住み慣れた地域で自分らしく暮らせる喜びを再確認できる場を提供している。また、職員は研修を積み重ねることで多目的に支援し活性化を図り老いに対する前向きな考えを励まして生きる最良の支援を日々探求し向上へと導いているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を通して反省点を振り返り業務日誌などの見直しを検討しより良いサービスの向上に努めていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) パートを含む全職員で評価し新たな改善策を見出し出していた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議案を確実に実行することで利用者家族への信頼を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者家族と接する機会を多く持ち不安解消を実行することで信頼関係を築いている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事の参加やボランティア活動の受け入れ歓迎を積極的に試みる機会を作り孤立化防止に努めていた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で交流を大切に安心して暮らせるよう支援する基本理念(5項目)を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭に置き、実現に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに隣接する陶芸釜を活かし陶芸作品や手芸作品を文化祭へ出品し、自治会の清掃活動に参加するなど地域との交流を図っている。また、地域の敬老会にも参加できるよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み外部評価を通して改善対策を考慮し実践に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2.3ヶ月に一度会議を設け現状報告や支援取り組み内容を報告しアドバイスを頂いている。また、会議内容を全職員が理解し共有することでサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
/////////					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回定期的にホームでの生活ぶりや健康状態、金銭管理を郵送している。また、必要に応じて電話連絡を取り家族が安心できるよう支援している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に現状報告、支援状況などの説明や意見、意向の傾聴により信頼関係を築いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない事情による異動を除き利用者のダメージを最小限に抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部・内部研修に参加し共有することでサービスの向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で認知症研究会を立ち上げ地域同業者や行政職員地域包括支援センター職員に協力を得て定期的に勉強会を実施することで連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の個性を活かし一方通行的な介護にならないよう相互関係を重視していた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の基本情報シートを活用し得ることで利用者本位の優先した支援に心掛けていた。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人と家族の意見、意向を重視しセンター方式シートを活用することで本人本位のケアプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化に見合ったケアプラン作成や見直しが柔軟性に実践されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人主体のホームにより、入所の際に主治医を変更することが多いが歯科・耳鼻科・特殊医療などの専門的医療は以前からのかかりつけ医を重視し、継続的治療を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後について家族と医師間で話し合い決定している。要望によっては看取りケアも受け入れ職員間で共有支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃よりプライバシー確保の徹底に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿ったペース配分に心掛けて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や希望食を取り入れることで利用者の力を引き出し一緒に作り片付ける喜びの場面を作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3～毎日希望時間帯に組み入れ支援している。また、外出傾向のある利用者に対して夕方の散歩後、入浴支援を行い精神を安定させていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴から趣味や興味のあることを引き出し張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	恵まれた自然環境の中、日々の散歩や買い物など触れ合いの場を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけないケアを心掛けているが外出傾向のある利用者の安全確認のため玄関にチャイムを取り付けている。利用者の中には居室の内鍵をかける方もいるが本人の安心感を優先した上での考慮となっていた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近位に消防署があり地元消防団や自治会の協力を得て年2回防災避難訓練を実施している。また、職員は万全に備えて応急手当の研修も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の業務日誌の中に食事量や水分量をチェックし把握している。一人ひとりの嗜好を把握し栄養バランスを考慮している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には一人ひとりを尊重した趣のある雰囲気は漂っていたが、共用スペースとなるホールに診療所的ポスターが不自然さを与えていた。		大きすぎるポスターと色使いが職員に対する警告のように感じられ家族や見学者に与えるイメージはどのように映っているのかも一度協議してほしい。(例えば利用者の生活空間以外の事務所内にA4ほどの大きさを張り出し共有する。)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活観が感じられ落ち着いて生活できる居室作りに努めていた。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 GH東の広場

記入担当者名 水野谷公代

評価結果に対する事業所の意見

特にありません。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。